

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第6号  
2017(平成29)年6月26日  
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 時代を読む — 豊井紡績所と西陣織 —

明治15年から18年にかけて、全国でいわゆる「十基紡（じっきぼう）」と呼ばれる紡績工場がつくられました。殖産興業を掲げる明治政府が、遅れぎみであった紡績業の振興を目的に、イギリスから購入した高価な紡績機械を民間に払い下げて設立を促した10ヶ所の紡績所です。払い下げにあたっては、当時の主要な綿作地や伝統的な木綿業の発達地域から希望有志を募り、最終的に三重県1ヶ所、岡山県2ヶ所、静岡県2ヶ所、栃木県1ヶ所、山梨県1ヶ所、奈良県※1ヶ所、長崎県2ヶ所（ただし1ヶ所は未操業）にそれぞれ設立されることになりました。

そして、このうちの奈良県※の1ヶ所が、天理市豊井町滝本に設立された豊井紡績所です。開業は明治16年12月です。※明治16年当時、奈良県は行政単位上は大阪府に属していました。

ところが、この豊井紡績所は創業当初から経営不振が続き、明治20年に大和紡績所と改称、さらに明治26年には前川紡績所と改称し、明治32年に廃業しています。廃業の理由は経営者側の姿勢によるところが大きいと思われそうですが、それに関連して「読みの甘さ」がありました。一つは動力の確保です。当初は布留川の豊富な水量を利用して、水車を用いる計画でした。たしかに幕末から明治期にかけて、布留川流域の豊井、豊田、三島のあたり一帯には多くの水車小屋があったそうです。しかし、2,000錘の本格的な洋式の紡績機械を稼働させるためには馬力が足りません。しかも、川の水量が一定しないために、安定的な動力を確保するためには、どうしても石炭による蒸気機関が必要となりました。石炭は大阪から木津川筋の船運を経て、車で天理まで運ぶ必要があり、そのコストは予想外の出費となりました。また、イギリスの紡績機は当然のことながら現地綿を基準に作られていますが、奈良県で調達できる国産綿とは、繊維の質が異なります。その上、機械がトラブルを起こした時に迅速かつ的確に対応できる熟練技術者がまだ育っていませんでした。背景に経営者側のさまざまな事情があったにせよ、開業後、わずか十数年で廃業に至ったのは当然の結果と言えます。

ところで、同じ明治時代の繊維業にかかわる話でも、後世に大きな功績を残した取り組みがあります。江戸時代後期から明治初年にかけて衰退していた「西陣の織物」を復活させた京都府の取り組みです。府は明治2年に西陣物産会社を設立し、同5年には佐倉常七、井上伊兵衛、吉田忠七の3名をフランスのリヨンに留学させます。世界の最先端の織物技術を学ばせるためです。3名は意欲的に学び、フランス式のジャカード(紋紙を使う紋織装置)やボタン(飛杼<とびひ>装置)など数十種の織機装置を輸入しました。3名が持ち帰った実りの大きさは計り知れません。やがて国産のジャカードが開発されるなど、最新の洋式技術を取り入れる一方、大幅な技術改良を重ねた西陣は、その後日本の絹織物業の近代化の魁として新しい発展を遂げていくことになるのです。

時代を読むことの大切さ。変革期にこそ、私たちが大切にしなければならないものは何なのかを教えてくれる、示唆に富む2話であるように思います。

写真は奈良県葛城市の綿弓塚 →



### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成29年5月26日～平成29年6月25日)

埼玉県2、千葉県1、新潟県1、長野県1、静岡県1、京都府1、広島県1、香川県1、佐賀県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成29年5月26日～平成29年6月25日)

メールを含む各種相談件数2、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数1件1名



## 【十基紡と西陣織に関する参考文献】

巻頭言の参考資料は以下のとおりです。

- ・『大和百年の歩み』(昭和45年 大和タイムス社刊) 291-295頁
- ・『日本のイノベーション 岡山のパイオニア』(2003 山陽学園短期大学社会サービスセンター編) 79-81頁
- ・『西陣：西陣織会館のご案内』および西陣織会館の展示資料(京都市上京区西堀川通)

※残念ながら『天理市史』『改訂天理市史』には、豊井紡績所に関する詳しい記述はみあたりませんでした。

## 《綿の栽培記録 2017》－平成29年度版 その2－

- 5月29日(月) 間引き。原則として1本立ちにする。
- 6月12日(月) 施肥。菜種粕と有機化成888を施す。
- 6月20日(火) 支柱立て。ヒモで8の字に誘引(写真上,和綿)。
- 6月25日(日) 摘芯。和綿のみ約50cmで生長点を摘む。

施肥について『綿圃要務』には、双葉の頃に一度、その14,5日後にもう一度、と記されています。そして、一番肥に油粕、二番肥に干鰯が良い、とも。「綿は肥料のやり方でその収益が大きく違う」とありますが、今回は施肥のタイミングがやや遅すぎました。ただ、今後の参考にするために、施肥の量を畝毎に変えてみました。実り方にどのような差異が出るか楽しみです。

『綿圃要務』の「大和の国綿の作り方」の条には、摘芯の時期について「土用入り3日前から」とあります。一方「河内国綿作りやう」の条には、「土用入りのころに、丈は一尺五、六寸くらいに伸びる。このとき、末端の芯を止める」とあります。1尺5、6寸は約50cmですから、今回は約50cmを目安に摘芯することにしました。ただし、摘芯したのは和綿のみです。6月25日の時点で、和綿にはすでにいくつものつぼみ、苞が現れていました。(写真下)。



## 【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量 (洋綿)

5月26日～6月25日(作業実日数26日) 糸の総量97.7g(26.10匁) 総時間307分(5時間7分)

※1分間≒0.318g 1時間≒19g(5.1匁)

## 【研修等の記録】

- ・平成29年5月28日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級⑤もじり通し」(京都府相楽郡精華町)受講
- ・平成29年6月3日「綿弓塚」(奈良県葛城市竹ノ内604)を訪問、見学
- ・平成29年6月11日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級⑥箆通し」(京都府相楽郡精華町)受講
- ・平成29年6月18日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級⑦織り付け」(京都府相楽郡精華町)受講

## 【芭蕉旧跡：綿弓塚を訪ねて】 竹内街道沿いにあり、旧商家の建物と一体の公園として整備されている。

芭蕉がこの地を訪ねて詠んだ好句「綿弓や琵琶に慰む竹の奥」を記念する碑が建てられています。

## 【以下の写真は、綿弓塚の記念碑、洋綿の様子、機織り教室⑤の様子です。】

